

登山時報

2025



SPRING
No.587

パタゴニア旅行記

第36期第1回評議会 報告／動的破壊実験&オームの測定



日本勤労者山岳連盟

登山時報

2025

春
号

No.587

CONTENTS

- | | | |
|----|-----------------------------------|---------|
| 01 | 巻頭言 | 川嶋高志 |
| 02 | 第36期第1回評議会 報告1 | 今野善伸 |
| 07 | パタゴニア旅行記 1 | W.A・J.K |
| 10 | どうやって会員を増やしていくか | 石川友好 |
| 14 | 地域に根ざした登山会
佐賀県「金立水曜登山会」を訪問しました | 吉永直樹 |
| 17 | 2025年全国規模の集会・会議 | |
| 18 | 2024年の事故概要から見た状況 | 石川 昌 |
| 22 | 動的破壊実験&オームの測定 | 白石泰之 |
| 26 | 登山に役立つ気象のお話 | 野尻英一 |
| 28 | 遭難の教訓 備忘録⑨「救助」 | 川嶋高志 |
| 32 | スティーブのノースウェールズ庭だより | 大和田英子 |
| 34 | 子づれ山さんぽ | 武井真理 |
| 35 | 第17回全国ハイキングリーダー学校のご案内 | 田上千俊 |
| 36 | マンガ フウフウハアハア | 村松孝一 |

〈表紙の写真〉みちのく杜の河畔公園
「ポピー畑と雁戸山」 畠山正四郎（みやぎトレッキングクラブ／宮城）

マイ・ウェイ

日本勤労者山岳連盟 理事長 川嶋高志

別れと出会いの季節、春の日差しは明るいが、もの悲しい気持ちになることもある。私も3月に、世界保健機関（WHO）で「高齢者」と呼ばれる歳になった。一昨年はカザフスタンで三途の川に片足を突っ込んだ。昔から好きだった「マイ・ウェイ」の歌詞が馴染むようになってきた。歌詞は日本語訳で良く歌われているものではなく、岩谷時子さんの歌詞が好きだ。特に「一度もしてはいない、

ただ卑怯な真似だけは」というフレーズが気に入っている。私も胸を張って正々堂々と生きていきたい。

さて、労山会員の半数を占める高齢者の遭難事故が多発している。事故一報で目立っているのが転倒事故だ。この原因は歩き方とトレーニング方法にある。詳しくは遭難対策部の報告にゆずるが、ゆっくり歩くことと正しい筋力トレーニングが必要だ。そのために今年度は「登山寿命を延ばす講習会」に力を入れて取り組んでいく。人生100年時代と言われているが、認知に支障が出たり、寝たきりになってしまうのは避けたいものだ。歩き方を考え、正しいトレーニング方法を身につけることで高齢になっても心身ともに健康な状態であることができる、私は考えている。

転倒事故と共に増えているのが海外山行である。円安とインフレをものともせず、労山会



八ヶ岳山麓、JR小海線沿いに咲く山桜

員は積極的に海外で山行を行っている。ただ、海外山行届の中には計画書の態をなしていないものもある。海外では健康保険が適用されないしココヘリも搜索してくれない。万が一の遭難事故には国内以上に真剣に考える必要がある。労山基金10口加入で救助搜索費が400万円、入院8千円と通院4千円（共に1日当たり）が交付されるが、これでは賄えない場合もある。さらに迅速な救助搜索のためには入下山連絡を現地もしくは国内留守本部で受け付ける必要がある。緊急連絡用に「EchoSOS」などのアプリをスマホにダウンロードしておくに役立つだろう。

美しい自然の中で、動植物とふれあい、頭で危険を予測しながら、適度な運動ができる登山を、いつまでも続けていきたい。平和を求めて自由な心で山に登り続ければ、いつでも人生の春はやってくる。

求め続けよう 平和な社会と安全登山！



評議会の情景（執行部側から評議員側を撮影）

を強いられるなど、人生を豊かにする登山を楽しむ余裕がなくなっているように感じます。

今回の評議会では、第36期上期の活動総括と下期の活動方針案の審議が中心となりますが、その他としてコンプライアンスに関する事案が議題となっています。コンプライアンスは、行政、民間を問わず共通不変の価値観で、狭い意味では「法令遵守」ですが、現代社会では「社会常識一般」も含めたものとされています。流行語大賞にもなった「不適切にもほどがある」は記憶に新しいです。労山のように、仲間の信頼の上に成り立つ民主的組織では当然に守るべきものです。

登山というスポーツを通じて、素晴らしい仲間と出会え、多くの気づきや学びを与えてくれるのが労山です。評議員の皆さんには、この類まれな登山団体である労山の価値を次の若い世代に繋げていくために、いま何をしたらよいのか、今回の評議会で心置きなく議論を深めていただきたい。このことをお願いして冒頭のあいさつとさせていただきます。

評議会の概要

日本勤労者山岳連盟の全国評議会が、2月15・16日に東京都府中市内のホテルで開催された。この評議会には48都道府県中32地方連

副会長あいさつ要旨 渡邊健治

あいさつの前に、この一年間山で亡くなられた7名の仲間に哀悼の意を込めて、黙とうを捧げたい。また日本海側の災害級とも言える記録的な大雪で苦勞されている会員にお見舞いを述べます。

昨年の総会から1年を振り返ると、トランプ再選をはじめ世の中全体が時代の流れに逆行し、人間社会の進歩とは真逆の方向に進んでいることが気がかりです。

国内では、少数与党化で失われた30年の総括が行われると思いきや、大企業優先と米国言いなりの軍事費倍増など、格差と貧困に苦しむ国民は置き去りです。

高齢者にとっては頼みの年金が目減りし、若者たちは学費を補うために複数のアルバイト



6月のハイキングリーダー学校を案内する田上ハイキング委員長

盟から35名の評議員（定数 52名）、傍聴6名と、全国連盟役員など総計67名が出席、議案への意見や質疑応答に続き、出席されたすべての地方連盟から、各地での活動が報告された。

両日の討議を経て、第一号議案（2024年度活動報告と2025年度活動方針案）。

第2号議案（2024年度財政活動総括と2025年度予算案）が賛成多数で可決された。第3号議案のうち、一般財団法人山岳基金役員の追加および労山基金運営委員の追加については承認された。しかし、第3号議案の一部（役員の罷免）については、保留が全体の半分以上を占めて可決に至らなかった。

全国の組織の情勢を紹介しよう。全国労山の会員数は2024年11月末の組織調査で536団体、16232名となり、前年と比べて384名の会員減となり、脱退の会・クラブはマイナス20団体だった。大きく組織数を減らしたのは都市圏の地方連盟（東京▲56名、埼玉▲26名、愛知▲52名、福岡▲36名）が顕著であった。理由

は高齢化による活動停止とネット入会者の定着率の悪さがある。北陸3県（富山▲17名、石川▲13名、福井▲13名）の減少も高齢化によるものである（若い人の入会者がおらず組織の膠着化）。新潟▲16名、静岡▲48名、岐阜▲31名であった。静岡は組織問題での脱退により減。

逆に数は少ないが、増加している地方連盟を挙げる。北海道

32名（若い人向けステップアップ研修が整備）、山梨28名（新規クラブの加入）、群馬24名（谷川岳クリーンハイクなどの対外活動、栃木22名（ハイキングに関する出版による吸引力）、



神奈川・早川評議員



道央・松村評議員

香川県9名（市民ハイキング教室の開催）が挙げられる。まとめると若い会員・継承する会員が不在の会・クラブは自動的に活動停止に追い込まれ解散に至るケースが多い。高齢化会員の退会が非常に大きな理由を占めている。逆に会員の増加に転じている会・クラブの特徴は、市民向けに「登山教室」「ハイキング学校」を開催して一般の方に参加を呼びかけ、入会を働きかけていることが功を奏している。

決議・決定集のご案内

第36期第1回評議会の決定事項（決算表報告や各種予算を含む）、および2024年の労山会員の山岳事故の集計や分析、労山基金の交付実績や登録状況、財政の収支などを評議会の「決議・決定集」に掲載している。地方連盟へ各会・クラブに一冊配布するように地方連盟へ一括発送したので活用してほしい。また、誰もが見ることができるようにJWAFホームページ（活動紹介/全国連盟の動き）にも掲載しているので、参照されたい。

評議会後の参加アンケートより

議案1号2号議案 活動報告と活動方針

- ・今回初めて評議会に参加しました。皆さんからすれば当然のように知っていることことが、私からすれば初めて目にするような単語や行事や組織名が飛び交い、新鮮さと勉強の連続でした。議案書を読む限りなんとか会員減少の悪いサイクルと高齢化に伴う防止のために限られた予算の中で様々な取り組みをされている。
- ・組織拡大に対する取り組みが不足していると感じた。会社などと同じで、若者や新人が入ってこない組織に将来性はないです。高齢者対策も必要であるが、労山は最近そちらへ目が向き過ぎてはいないか。年々、会員が減少している問題から目をそむけてはならない。
- ・女性委員会のアンケート回答欄を読むと、女性委員会の役割は終えた、廃止してよいとの意見が多かった。私も性別分けした活動よりも男女ともに活動したほうが良いと思う一方で、執行部に女性が少なすぎます。男女比率同数となるような取り組みを希望する。
- ・組織強化拡大に対する具体策が見えてこない。各地方連盟、各会の取り組みのなかで有効な

方法、あるいは結果は出ていなくとも今取り組んでいくこと、その中で課題となることを取り上げてほしい。組織担当者会議が無くなったことで、全国登山研究集会の中で組織強化拡大をより深掘りできる形で取り上げてほしい。



京都府連・坪山評議員

3号議案 役員の罷免

- ・罷免する趣旨がよくわからなかったので保留にした。事前にちゃんと順序だてて説明してくれれば理解出来たと思う。
- ・急な提案でもっと問題点を整理して提案してくれたほうがよかったのではないかな。
- ・3号議案に多くの時間を取られて、もっと組織拡大や地方連盟の活動報告がふそくしたことは残念だった。

その他会議の運営など



終了後の記念撮影、次回は11月の全登研（大阪）で会おうと挨拶！

- ・冒頭から場慣れした評議員より、議長の人
数と指名に関して異論がでたあたりから、こ
れが全国連盟流の評議会なのか？と比較的大
人しく融和的な自分の連盟とは違った様子に
戸惑いました。でも、厳かで退屈な総会には
ない、まるで国会や株主総会のような評議会
は面白いと思ってしまいました。ひとつ残念
なことは、3号議案に関して時間が取られて
しまい、地方連盟の活動報告が満足に取れな
かったことです。
- ・一部の評議員の発言に片寄っている部分を強
く感じた。
- ・特定評議員の発言時間が長すぎる。発言者の
良識を求めたい。
- ・発言の機会を制限することは必要ないが、発
言者の品性、執行部への敬意が欠けているこ
とは、聞いていて気分が悪かった。議長団の
苦労が偲ばれた。
- ・（議長は）不規則な発言は制すること、採決
の際の順序や採決の案件を明確にすること、
動議といっても提案になっていたので事前に
キチンと文書で提案させることなど議事をス
ムーズに進める事前の想定と打ち合わせが必

要だった評議会でした。

地方連盟の活動報告（主に組織拡大）

- 〈沖 縄〉 会員数 20 名のうち三分の一が体調を
こわしており、毎月 2 回の定例山行
は 8-10 名の参加で行っている。現状
維持だ。
- 〈宮 崎〉 HP を見て入会する人は年間数人い
るが、定着しない。例会山行を月一回
程度開催しているが、登山教室など
を開催する余裕がないです。
- 〈大 分〉 会員の高齢化で山行が減少、山行時
に登山者へ入会勧奨を地道に行っ
てはいるが、若年者の入会が難しい。
- 〈長 崎〉 県連役員のなり手がいないので、ずーっ
と長期にやっている人がほとんど。今
後、世代交代を行わないと停滞縮小
してしまう。
- 〈佐 賀〉 佐賀支部は現状維持を保っているが、
唐津支部は大幅に減らしており。高
齢化の問題とあわせ歯止めが利かな
い状況だ。

〈福岡〉「夏山フェスタ in 福岡」に参画しセミナーを担当している。地域への安全登山講習会なども行ってリーフレットを配布し、拡大に努力している。

〈愛媛〉二つの会はブログで会活動を発信しているが今年度は入会者なしで現状維持だ。会員の高齢化は例会山行に影響して参加者が少なく固定化している。

〈高知〉各会の会員数の減少傾向に歯止めがかからない状況だ。

〈香川〉毎月の理事会で会員拡大について議事として取り組んでいる。会員増の目標を達成している。高齢化の問題で役員も高齢化しており世代交代が急務だ。

〈広島〉65歳以下の一般の方を対象に「初級登山学校」を継続実施して会員拡大に努めている。山行回数の増、HPの更新、新入会員のフォローの個別対応など。

〈岡山〉専門部制度をもうけ理事会活動を充実させている。各会に対する援助と指導および交流を図っている。

〈兵庫〉強化のために県連と各会との結びつけを強めるのが喫緊の課題。県連行事への参加人数を増やすことが必須。

〈大阪〉各会と連盟とで協力して会員拡大について取り組んだ。組織担当者会議の開催、HPの現状認識、リーフレットの作成・配布など。

〈和歌山〉クリーンハイクや長距離縦走の機会に一般参加者の入会呼びかけの取り組みが十分でなかった。公開ハイク

の実施やHPの充実で会員増の会があった。

〈奈良〉連盟として組織拡大の選任役員もおらず取り組めていない。大きな会では公開登山や登山教室などを通して会員獲得を行っている。

〈京都〉各会のカラーや地域性を生かした活動が組織拡大に繋がっている。会員数の減少、高齢化による活力低下がみられるクラブに対して交流を通じ支援している。

〈滋賀〉50代、60代前半の会員を増やして世代交代を図りたい。

※組織拡大強化の成功体験例は、2025年11月15日～16日の全国登山研究集会（大阪市）で集中的に取り上げるとともに、拡大策の具体的な施策をまとめる予定である。

※東海地区および東日本地区の地方連盟は次号・夏号に掲載予定です。



パタゴニア旅行記

A.W



アルゼンチン旅行事情

治安：ブエノス、ウシュアイア、チャルテン、カラファテと4つの街に行きましたが、危険と感じることは全くありませんでした。

金銭事情：アルゼンチン通貨ペソ対ドル為替のブルーレート（非公式）が存在しており、非公式レートの方が良いレートでペソに変えられる。ブルーレートは現金でのみ対応してくれるので、今回は事前に日本国内で米ドルを購入し、アルゼンチンでペソに替えた。

物価：アルゼンチンは近年ハイパーインフレで、物価は日本より高かった。水500ml一本安いところで1.5USドルくらい（220円くらい）。ビール 500ml 一本 4-5US ドルくらい（600～700円くらい）。

食事：とにかく肉食が主！ウシュアイアだけは海に面しているのに、シーフードもあったけど。全体的に野菜少ない。ランチボックスはサンドイッチとリング又はバナナ、そして激甘チョコ菓子。カラファテとブエノスではラーメン屋があった。

酒事情：ワインの国と聞いていたが、ビールもたくさんあった。特にパタゴニアビールという地ビールは美味しかった。

言葉：ガイドは英語。街中では英語が通じない、そのときはスマホの翻訳ソフトで日本語をスペイン語に変換して意思疎通を図った。ハウマッチ？とか簡単な英語でも全く通じなかった。



期間：2024年11月22日から12月5日 14日間

所属：道東連盟・帯広勤労者山岳会

A.W、J.K、F.N、M.I

旅程：11/27～29

フィッツロイ&セルトール展望トレッキング

12/1 ペリトモレノ氷河トレッキング

12/2 トドグラシアレス氷河クルーズ



地ビールパタゴニアと羊の丸焼き



ヴィンチグエッラ氷河と テンパノス（冰山）湖トレッキング

J.K



ロステンパノス湖の前で、彼方の山は標高 1200m

「世界の果て（End of the World）」の響きに心惹かれ、アンデス山脈の南端にある火の大地（Tierra del Fuego）フエゴ島のウシュアニアにやってきた。ブエノスアイレスから 3,200km（飛行機で約 3 時間半）、憧れのパタゴニアははじめの一步、ウシュアニアは強風吹きすさぶ荒涼とした大地…ではなく、南極に最も近い「世界最南端の都市」で、とても風光明媚なところであった。

町の中心から離れたホテルはビーグル水道沿いの素晴らしい場所にあり、対岸の雪を抱いた山々やカモメを眺めながら、水辺を散策する。ウシュアニア到着を祝したランチは子羊の豪勢な炭火焼！力強い味わいのアルゼンチン赤ワインとのマリアージュに感動。この日は早朝 4 時半にブエノスアイレスのホテルを出発し、長距離移動をしたので午後のはんびり休養…ではなく、15 時からビーグル水道クルーズでマゼランペンギンを見に行く強行軍。南緯 55 度、初夏のウシュアニアは白夜で 21 時から

Ushuaia, Republica de Argentina

（ウシュアニア、アルゼンチン共和国）

○メンバー A.W、J.K、F.N、M.I

その他 4 名（ガイド 1、ゲスト 3）

○コースタイム

9：00 自然保護公園入口を出発 →

11：40 氷河湖 → 12：00 氷河

13：00 下山開始 → 15：30 自然保護公園入口に到着



ヴィンチゲラ氷河（標高 700 m 付近で撮影）

いまで明るかった。

さてさて、ウシュアニア 2 日目はトレッキングだ！謎の「VINCIGUERRA 氷河と LOS TEMPANOS 湖トレッキング」。朝 8 時頃、ホテルの前にガイドのルーカス登場。鼻ピアスをしたイケメンだ。さっそく N 氏がジャージと赤い運動靴にダメ出しされる。N 氏が渋々トレッキングシューズに履き替えてくると、ルーカスは「Perfect！」と爽やかな笑顔。他の客をそれぞれのホテルでピックアップしながら、町の中心地から北へ約 10km、車で坂道を登っていくと民家の庭先のあちこちに馬がいた。本日のトレッキングは、VINCIGUERRA 氷河の端っこまで往復 15km/7～8 時間の予定だと

ルーカスの説明をきく。氷河のある山は標高約1200m、目的地は標高約700mで道中に登りが3つあるらしい。出発前にトレッキングポールを渡され、メンバーの自己紹介。我々日本人4名の他、若いイタリア人カップルと歩きなれた感じのアルゼンチン女性（around 40？）で総勢8名。ルーカスはスペイン語と英語の2か国語ガイドである。

よく晴れた青空の下、遠くに山を望みながら眩しい緑の中を歩き始める。川辺では色とりどりの馬たちがのんびりと草を食っている。この自然保護公園？の看板には「SITIO RAMSAR（ラムサール条約）GLACIAR VINCIGUERRA TUBERAS ASOCIADAS（ヴィンチグエッラ氷河とそれに関連する泥炭地）」と記されていた。黄色の花をつけたカラファテの茂みやぬかるみ（泥炭？）の中を進み、気持ちのよい流れの川を渡り、森の中を登っていく。チョコレートフラワー、No flavorキノコ、南極ブナなどなど？しばらく歩いていると、別パーティとガイド犬が追いついてきた。やけにフレンドリーな黒い犬たち（Bob ボブと Negro クロ）がつかず離れずついてくる。

森を抜けると、氷河からの清冽な水の流れがあり、一気に空気が冷たくなった。どんどん登っていくとLOS TEMPANOS湖に到着。半分くらいまだ凍っているようだ。VINCIGUERRA 氷河の端っこはすぐそこだった。氷河の割れ目を覗くのは順番待ちがあり、まずはランチタイムとなる。ホテルで受け取ったランチボックスはずっしりと重く、ビッグサイズのサンドイッチの他、リンゴ丸ごと1個、キャンディやナッツ類、アルゼンチンの国民的お菓子 Alfajor（アルファホール）などなど日帰りトレッキングには十分すぎるほど充実した中味である。真剣なまなざしでこちらを見つ



氷河つらら入り Amarula で乾杯！



ガイド犬のフレンドリーなボブとクロ

めてくるボブやクロにおやつを分け与える。氷河からの冷氣で寒いなあと思っていると、ルーカスが魔法瓶を取り出して、メンバーに温かいカボチャスープを配ってくれた。沁みるー。

ルーカスの案内で氷河の割れ目の中に入る。美しいブルーの氷壁は硬く、冷氣を放っている。氷河のつららを折ってミニグラスに入れ、Amarula（甘いクリームリキュール）を注いで乾杯！心憎い演出だ。

このエリアにはいくつかトレイルがあるようで、外国人観光客よりもアルゼンチン国内の人たちに親しまれているような印象だった。なかなか気持ちのよいトレッキングだったなあ。

ホテルに戻ってもまだまだ太陽は沈まず、4人でセントロへ出かけて夜ごはんを食べた後、W&Kの呑べえ二人はパタゴニアビールのピアホールで痛飲&散財し、破産寸前でタクシーに乗り、ホテルに戻ったのでした。

（夏号に続く）

どうやって会員を増やしていくか

3つの会の
経験に学ぶ

いま、全国の労山会員数は毎年減少し、高齢化で役員のなり手も不足して解散を余儀なくされる山の会・クラブも見受けられるようになりました。これにどう対処していくべきか、悩ましいところです。

全国連盟組織部では、特徴のある3つの会をピックアップし、その経験を聞いてみました。

組織部 石川友好

1

帯広勤労者山岳会（北海道）

たつ み いさお
辰巳 勲さん（北海道道東連盟・理事）に聞く

●帯広勤労者山岳会の組織状況を教えてください

会員拡大のために、特別なことはしていません。帯広は大雪山や日高山脈に囲まれています。そういった山で冬山登山とか、沢登りを単独で行うとすると、特に日高ではルートもあまり整備されていないので、行き詰まってしまいます。そうした人が、冬になると入会してきます。入会者の年代層は20代～60代と幅広くなっています。70代の新入会は、ありません。（在籍会員には70代の方もいます）。アクティブな登山をしたいと思う人が入会してきて、ゆったりとした登山をやりたい人は、入会してきません。

新入会者は年間10人くらいですが、1/3は1年以内に退会してしまうため、定着率は高くありません。

●会活動には、どんな特徴がありますか

会員が自分たちの山行を優先したいと思っているので、新しい入会者へのケアが十分にはやりきれていません。訓練山行は、年間に5～6回は実施しています。

帯広勤労者山岳会 会員数

年	2021	2022	2023	2024	男	女
登録数	35	43	39	42	24	18

各年入会者 入会時の年代分布

	2022年		2023年		2024年	
	男	女	男	女	男	女
20代				1	2	
30代	1	1	1			
40代	1	1	2			
50代	1	1	1			
60代		1				

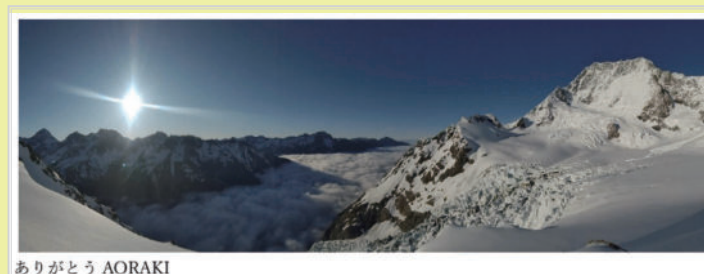
●会のホームページに掲載されたFace Bookが見ごたえありますね。これを見て入会してくる人が多いのではないですか

会として、組織的に会員拡大に取り組んでいるわけではありません。事務局がHPを管理していますが、そんなに手間をかけてはいませ

ん。それでも、この地域の山の会をネットで検索すると、帯広勤労者山岳会がトップで表示されます。



帯広勤労者山岳会のホームページ



ありがとう AORAKI

ニュージーランド Mt. アオラキ 2025.11.5 ~ 11.10



ブログ 写真掲載が多い

2

山梨・山の会（山梨県）

わ とうすえのぶ
和唐末信さん（山梨・山の会 会長）に聞く

●山梨・山の会の会員数が大きく増えています
が、その理由を教えてください

当会は十数年前から会員減少と、平均年齢が毎年1歳近く上昇する状況に悩まされていました。このままでは、組織維持が危ぶまれるとの危機感から、2018年から会員拡大を目的に交流ハイキングを開始しました。

当初は結果が出なかったのですが、継続することによって県民に認知され、期待する効果が得られるようになりました。その後、2021年

山梨・山の会 会員数

年	2021	2022	2023	2024	男	女
登録数	61	65	70	95	41	54

に公開登山教室、2022年に公開沢登り教室を立ち上げました。これらの結果、会員数は増加し、平均年齢も低下に転じています。

しかし、男女とも40代、50代の入会が増え

2024年入会者、入会時
年代分布

	男性	女性
40代	1	3
50代	2	4
60代	3	6
70代	2	1
合計	8	14

たとはいえ、30代以下の会員は女性1名のみであり、会員拡大の目途がついた今、若い入会者をどう増やすかが、今後の課題となっています。

●公開登山教室の成果を教えてください

2018年以降の入会者は74名、その大半が登山教室などの受講者です。なかでも公開登山教室が、最も多い。HPでの案内に加え、チラシを作成して公民館、道の駅、登山用具店、県民の散歩コースである湯村山の東屋などに置いて、募集をかけてきました。なかでも湯村山でチラシを見て、応募してくる方が最も多いです。

●どんな教室を開催しているのですか

①登山学校は4年前から、②ハイキング学校

は7年前から、③沢登り教室は3年前から実施。

2024年度は①では、受講者30名中20名くらいが入会、②では受講者が20名くらいありましたが、入会者はなし、③では5～6名の受講者のうち、2～3人が入会してくれました。

●なぜ、そんなに登山教室の受講生が集まるのでしょうか

山梨県は周囲を山に囲まれていて、毎日、山を見ながらの生活なので、山に関心が深いのだと思います。去年はたくさん入会者があったため、会員の平均年齢がかつては毎年1歳ずつ上昇していたのが、2024年度は平均70歳から、2歳くらい引き下がりました。



山梨・山の会のホームページ



募集案内

3

丸亀しわく山の会（香川県）

よしだ みちひろ
吉田道弘さん（丸亀しわく山の会 会長）

まえだ たかし
前田隆さん（丸亀しわく山の会 事務局長）

に聞く

丸亀しわく山の会 会員数

年	2021	2022	2023	2024	男	女
登録数	63	61	60	66	36	24

●「丸亀しわく山の会」では、専門業者に依頼して、見やすいホームページを作ってもらったと聞きましたが？

ITに詳しい会員がネットで検索して、坂出市にあるワンズパソコンという個人経営の会社を見つけ、依頼しました。代金は約10万円。作ってもらったHPはソフトタッチで、敷居を低くし

入会者、入会時の年代分布

	2023年		2024年	
	男	女	男	女
40代	1			
50代	1	2	1	1
60代			2	2
70代				2

であり誰でもアクセスしやすくなっています。更新は、会報部を担当する会員が行っています。

●どのような手順で更新をしているのですか

当会では、年間で約80企画を組んでいます。山行部が計画を立て、参加者のなかで記録係を決め、約3日後までに、会報部に個人の感想も含めて自由に表現し、写真も豊富に送ります。会報部（7～8人）のなかに、HP担当者が3～4人おり、HPに掲載します。去年の例だと、年間80企画のうち55企画が実施され、そのうち48企画がブログとしてHPに掲載されました。HPの充実には、特に気を配っています。同時に連携して、フェイスブックや、インスタグラムにも、会の写真をタイムリーに掲載しています。

●入会してくる人は、HPを見ての人が多いのでしょうか

今は、特に会員拡大の取り組みを会としては行っておりませんが、HPのブログを見て、入会してくる人がほとんどです。入会者はHPを見て、「活発に活動している会なのか 自分が活動しやすい会か？」を搜しているようです。

●パソコンの技術は、どうやって会のなかに普及しているのですか

会員のなかにパソコンに詳しい人がおり、その人のマネをしています。また、多くの会員がHPに投稿したり、フェイスブックに山行報告をアップしたりしています。そのために会としてインターネット・パソコン・スマホなどの講習会を適時開催し、多くの会員に参加してもらうよう、気を配っています。

●会運営で、なにか気をつけていることがありますか

会員の平均年齢は65歳を越えました（2025年）。いろいろな会員が参加しやすく、「うちの会に入ってよかった」と思ってもらえるように、



丸亀しわく山の会のホームページ



会の説明・ブログ

工夫をしています。月に6～7本の企画をたて、ロープウェイに乗る企画や、山だけではない企画も工夫しています。その一方で、山の会である以上、岩や雪山登山には人材も、お金もかけて、バランスのとれた山の会となるように意識しています。

●例会はどのようにやっていますか

きれいで明るいコミュニティセンターの、60人は入れる大きな部屋を使っています。月2回、顔を見せて話をするのが大切です。年配の会員にとってもそうです。勉強会も実施しており、今日もいま、SNSについての勉強会を13人でやっているところです。



地域に根ざした登山会 佐賀県「金立^{きんりゅう}水曜登山会」を 訪問しました

吉永直樹

「アメニモマケズカゼニモマケズ」

登山する皆さまは、毎週どれくらいの山を登られているだろうか。今回ご紹介するのはその名の通り、佐賀県佐賀市にある金立^{きんりゅう}山（502 m）を“毎週水曜日”に登る会である。労山には加盟していない。設立は2010年10月。当時中央アルプスや海外遠征を計画していた佐賀市の登山家が自身の体力トレーニングと市民の健康増進を考え、市内からアクセスしやすい金立山の麓、市の施設の無料キャンプ場広場を駐車スペースに利用を許可されスタート。

初回は佐賀市長も来賓で挨拶をされたそう。今年で15年目を迎える現在の様子を実際に同行しながら取材してみた。

参加は無料、初めてでも朝9時～9時20分までに集合し受付を行う。配布されている案内には順守事項に①事故、負傷な

金立山ルート図



どは自己責任。各自で傷害保険へ加入。②しっかり歩き、みんなと一緒に登ることができる人。③リュックに鈴など付けない。ストックはキャップを付けて。④ゴミやトイレ後のティッシュなど持ち帰りをお願い。⑤犬などペットとの同伴は遠慮下さい。と明記されている。

運営は会長の吉原敏郎さん（75歳）がリーダー兼務で全体をまとめ、ほか12名のリーダーと事務局担当などボランティアで構成。設立から数年間は運営に関わる費用の補助として佐賀市から助成を受けていたようだが現在は受けていない。基本的に参加無料であるが参加者から自発的な寄付が寄せられるそうで運営費用は確保できている。

最近の1回に参加する人数は60～80人ほどのようだが、過去多かった時で150人が集まったという記録もあるとのこと。平均年齢は男性76歳、女性68歳というのが5年前のアンケートで確認されており、最高齢は88歳。これだけの人数を受け入れできるのは、何よりも広い駐車スペースを確保できているのが大きい要因と吉原さんは語ってくれた。

受付を済ませると駐車したその場でラジオ体操が始まり、続いて本日の担当リーダーが挨拶。続いて歩くコースを説明する。金立山登山スタート地点の標高は90mで頂上が500



登山前のラジオ体操



途中休憩の連なり

m、この日は距離にして約6.7キロ、累積標高差670mというコース。下山までは昼食休憩を含め約5時間の予定。歩き始めにカウンターを使い人数を数え、受付した名簿の人数と誤差が無いか確認する。

この日は74名の参加。一度の山行でルート上に連なる集団としては、とても圧巻の人数だ。すれ違う登山者はいなかったが、これだけの人数が登山道で列をなすと全体のペースは自ずとゆっくりで、感じた主観的運動強度は“12”くらいだろうか“キツさを感じる手前”を上回ることではないペースを維持しながら歩くことがで

きた。

大人数の山行で気になる山行中のケガや病
気、体調不良など歩き続けることが困難な参加
者への対応については、サポート役のリーダー
が無線機を携行し先頭と中間、最後尾に配置。
もしもの時に付き添い、場合によっては途中下
山に同行するなど万が一に備えている。この日
参加者の中には何ヶ月ぶりという方もおられ、
途中疲れた様子や先に進んで下さいと自ら申し
出て休憩される場面も見受けられた。

会に参加して10年になるという女性リー
ダーのひとり松隈さん（77歳）は、仲の良い
メンバーと金立山を水曜日以外にも登るよう
になり体力が向上。有志で集い県外の登山経験も
増えたとのこと。北は北海道のトムラウシ山、
北アルプスや南は鹿児島県の屋久島、海外でス
イスをハイキングするまでになったそうで、会

話しながら息を切らすことない足運びはテンポ
よい。健脚ぶりを垣間見た。

山頂到着はほぼ12時、周辺は広場もあり各々
で昼食休憩を45分。下山の開始時に再度人数
を確認し14時には登山口のある広場へ着いた。
ストレッチ体操を行って解散。

会長の吉原さんによると、山行でどのコース
を歩いても下山は14時頃になっているのが、帰
宅して家事を担う主婦層も参加し易いのではな
いかとのことだった。

毎週水曜日の登山を基本としている会で気にな
るのが悪天候の対応。何うと予報で警報か注
意報が発せられた場合は無理せず中止している
そう。他に休むのはお盆と年末・年始が水曜日
と重なった時だけ。それ以外は雪でも登ってい
るということで、これを15年続けてこられた
皆さんの精神と体力の強さを感じた。



様々な登山コース



吉原会長（右端）とリーダー事務局の皆さん

2025年 全国規模の集会・会議

第 36 期下期 (2025 年度) 日本勤労者山岳連盟

機関会議・集会	第 36 期第 1 回評議会	2/15 - 16	東京府中市 ホテルコンチネンタル
	全国登山研究集会	11/15 - 16	新大阪ユースホステル
行事・集会	第 39 回全国雪崩講習会	1/31 - 2/2	白馬杵池高原
	全国救助技術交流集会	7/5 - 6	兵庫県神戸市
	全国ハイキングリーダー学校	6/7 - 8	長野県
	自然保護講座	9/27 - 28	青森県
	若手クライミング講習会	10/4 - 5	長野県小川山
国際会議・集会	アジア山岳連盟 (UAAA) 年次総会	6/19 - 23	モンゴル
友好山岳団体との共同の集会・会議等	全国山岳遭難対策協議会	7 月	東京・文部科学省
	第 9 回「山の日」記念全国大会	8/10 - 11	福井県

労山カレンダー写真募集

2026
年版

今回も労山会員の山写真でカレンダーをつくります。
山や登山の素晴らしさ、魅力が伝わる 1 枚をお待ちしています！

募集期間 **5 月 20 日(火) 必着**

応募規定

資 格：労山会員
点 数：一人 5 点まで
期 日：2025 年 5 月 20 日必着
写 真：横位置のみ、合成不可

採用された方には謝礼 2 万円
すべての応募者にカレンダー 1 部進呈



- ・データの場合
1000 万画素数以上 (縦 2500 × 横 3500 ピクセル以上)
形式は JPEG または TIFF
- ・フィルムカメラ作品の場合
B4 サイズにプリント、もしくはデータ化したもの
- ・人物が主題の作品は、写っている人の許諾を得ていること

※写真はトリミングさせていただくことがあります。
※カレンダー (B4 判・中綴じ) 掲載時の仕上り寸法は 257mm × 364mm です。

採用作品は下記にも掲載いたします。予めご了承下さい。
- JWAF journal の表紙 - 日本勤労者山岳連盟ホームページのトップ

スマートフォンで撮影される方へ

毎年、素敵な構図なのに画質の問題で選考外になる写真が多数あります。
縦 2500 × 横 3500 ピクセル以上のサイズで撮影してください。



選考規定

採用数：表紙および 1 月～12 月の計 13 点
選 考：小松由佳さん (フォトグラファー)

応募方法

WEB 応募 <https://ws.formzu.net/sfgen/S28243176/>



郵送 CD-R 又は USB で送付。フィルムカメラでの作品はデータ又は B4 サイズのプリント写真で送付。氏名・所属会・地方連盟・住所・電話番号・メールアドレス、各作品名・被写体の山名 (山域)・撮影年月日を明記してください。

送付先 〒162-0814 東京都新宿区新小川町 5-24 **日本勤労者山岳連盟**

※返却を希望する場合は、返却先を記載して切手を貼った返送用封筒を同封してください。

2024年の事故概要から見た状況

日本勤労者山岳連盟 遭難対策部部長 石川 昌

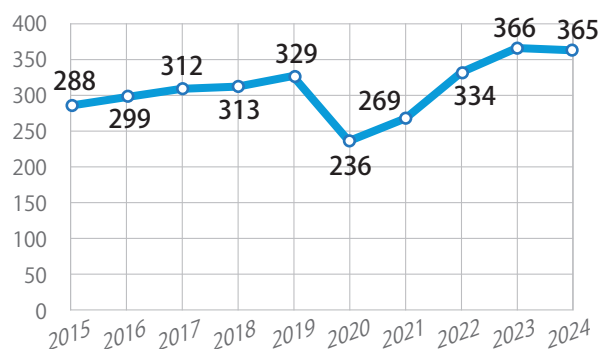
前年度と同様の傾向が3点継続している。

1. 事故者数の高い状況が続いている。統計上で事故者数は過去最多となった前年（366人）とほぼ同数365名、事故件数は349件。前年は、都市近郊の事故も多発したが、2024年は北アルプスを中心とした2000mを超える山への登山と海外登山や登攀系の登山も増加した。

1. 全国過去10年間の事故の推移（2015～2024）

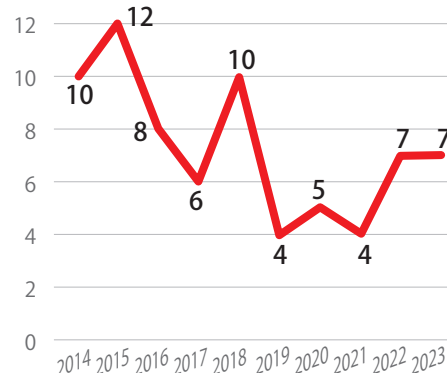
年	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
事故者数	288	299	312	313	329	236	269	334	366	365
死亡行方不明	12	8	6	10	4	5	4	7	7	7

事故者数



2004年から2023年の20年間で事故者数は前年最多数366名に次ぐ過去2番目の事故者数。

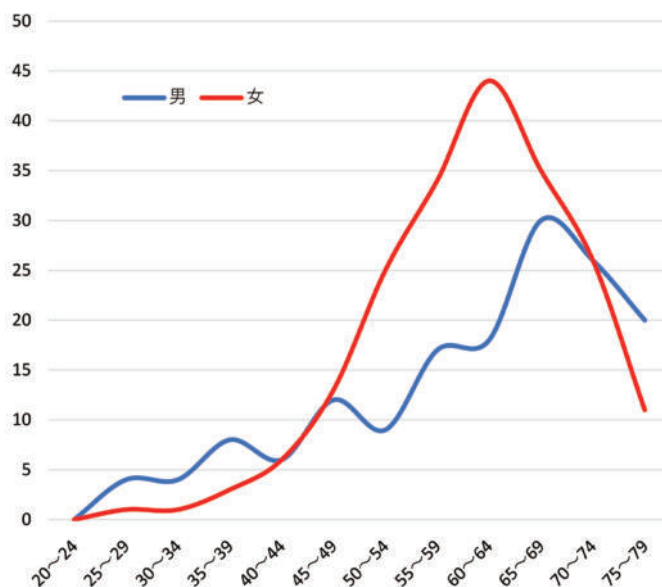
死亡行方不明



2. 事故者の高齢化が進行している。年齢構成は、2024年に75歳以上の事故者が43人と前年の30名台から40名台に推移している。年代別の最多数は、65～69歳で65人となりこの数年で70～75歳に推移し移行して行くと考えている。60歳以上の事故者は222人で61%である。

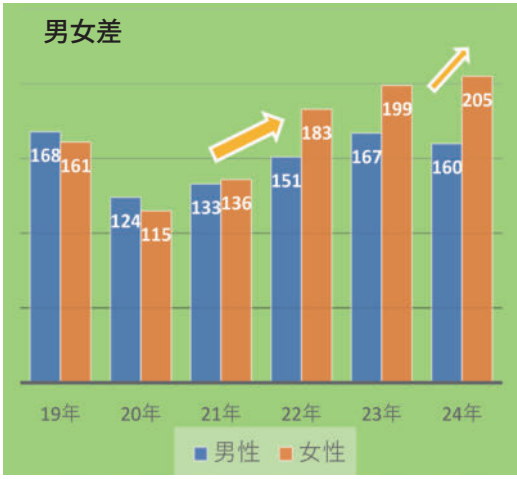
2. 年代別・男女別事故者の状況

年代	男	女	小計
20～24	0	0	0
25～29	4	1	5
30～34	4	1	5
35～39	8	3	11
40～44	6	6	12
45～49	12	13	25
50～54	9	25	34
55～59	17	34	51
60～64	18	44	62
65～69	30	35	65
70～74	26	26	52
75～79	20	11	31
80～84	5	5	10
85～89	0	1	1
90以上	1	0	1
合計	160	205	365



3. 2021 年までは男女の差は殆んどなかったが、2022 年より女性の事故者が大幅に増加した。2024 年の男女別登山者数実態は、現時点では掴めてないが各山岳会から寄贈された会報から推定しても女性会員の登山者数は男性を超えている事も要因の一つである。どれだけの会員が山に登っているのか実態を把握することも必要だと考えている。

	男性	女性	合計	男女差
19年	168	161	329	7
20年	124	115	239	9
21年	133	136	269	-3
22年	151	183	334	-32
23年	167	199	366	-32
24年	160	205	365	-45

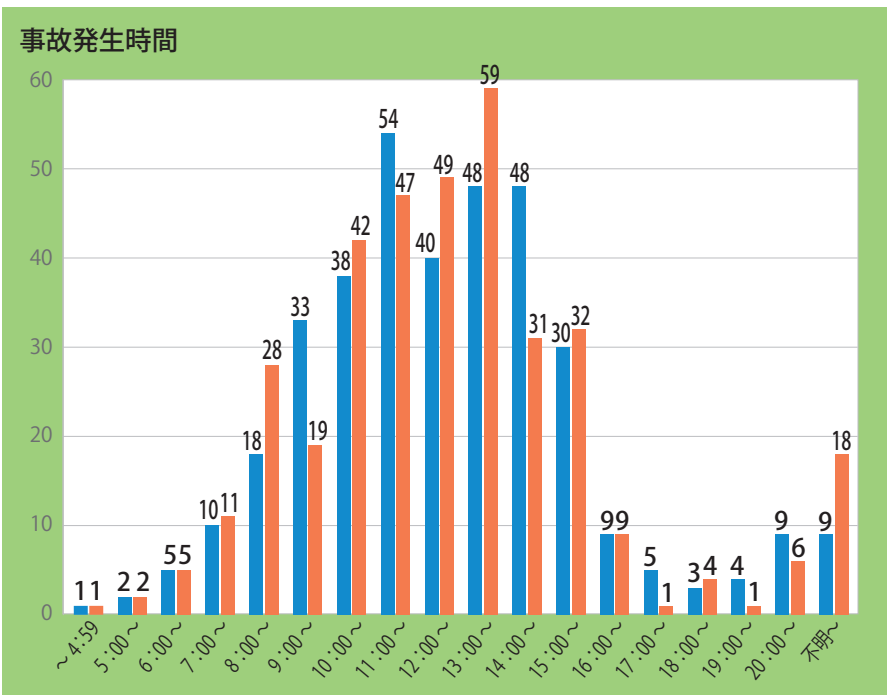


更に、特徴的な変化があった。

1. 事故発生時間帯が変化した。13時に事故が多発している。2023年は11時と13時二つのピークとなり、11時台は転滑落事故、13時台は転倒事故が多い傾向にあった。2024年は、13時の時間帯に転倒（32人）転・滑落（16人）と各時間帯の最多数。午前中の10時から12時では、転倒（70人）転・滑落（33人）と午前中に発生している事例が多い。

2. 時間帯別事故者の状況

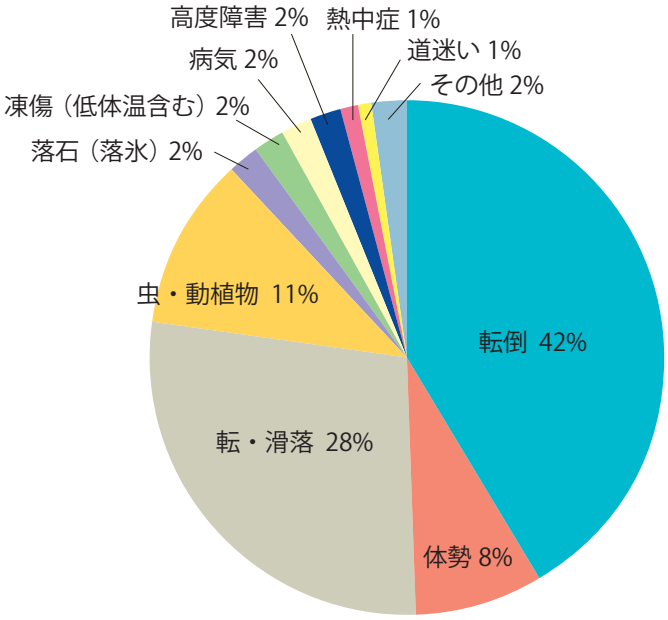
時間帯	2023	2024
～4:59	1	1
5:00～	2	2
6:00～	5	5
7:00～	10	11
8:00～	18	28
9:00～	33	19
10:00～	38	42
11:00～	54	47
12:00～	40	49
13:00～	48	59
14:00～	48	31
15:00～	30	32
16:00～	9	9
17:00～	5	1
18:00～	3	4
19:00～	4	1
20:00～	9	6
不明	9	18
	366	365



※不明（虫・動植物 10 名、凍傷 2 名、病気 2 名、死亡 1 名、その他 3 名）

2. 事故の原因として、転倒事故(体勢含む)が減少し転・滑落が増加した。2000 m以上の登山と登攀系の形態が増加した事が要因と考えられる。大きく急増したのは、動植物である。特にマダニの被害は多い。凍傷や高度障害は、増加傾向であった。

原因名	事故者数	男	女
転倒	152	54	98
体勢	28	11	17
転・滑落	104	53	51
虫・動植物	42	17	25
落石(落水)	8	5	3
凍傷(低体温含む)	7	5	2
病気	7	3	4
高度障害	6	5	1
道迷い	2	2	0
熱中症	2	2	0
その他	7	3	4
合計	365	160	205

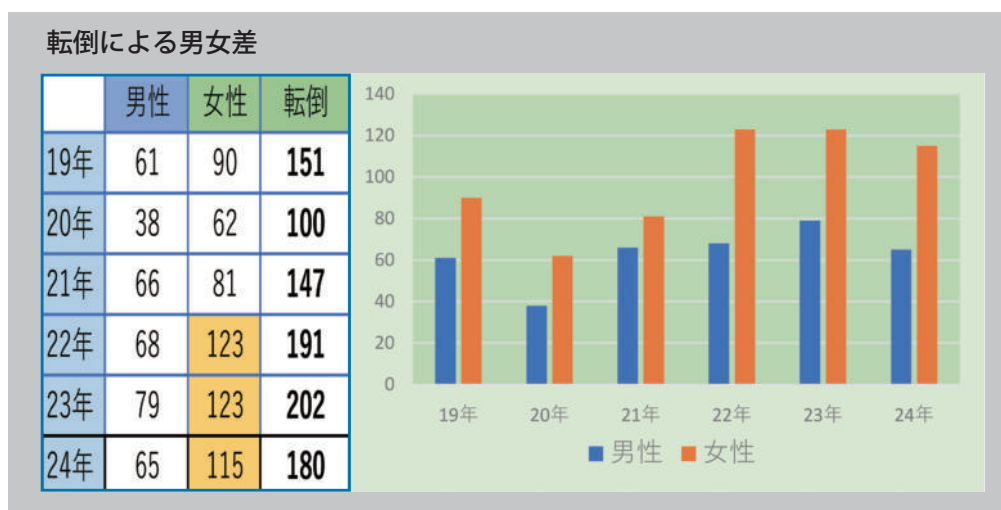


	転倒 (体勢含む)	転・滑落 (墜落含む)	落石	虫・ 動植物	高度 障害	雪崩	病気	道迷い	凍傷	火傷	下山 遅れ	その他	合計
21年	191	81	7	13	4	0	4	0	7	0	0	27	334
22年	191	81	7	13	4	0	4	0	7	0	0	27	334
23年	202	90	8	26	2	0	6	2	3	1	1	25	366
24年	180	104	8	42	6	0	7	2	7	1	1	7	365

※その他は、下山中や下山後に痛みが出た事例、特定の原因が不明な事例、単独死亡で原因不明の事例等が含まれる。

※虫・動植物は、マダニ 16、蜂 9、ヒル 1、チャドクガ等の虫 10、マムシ 1、枝・竹等 5 が含まれる。

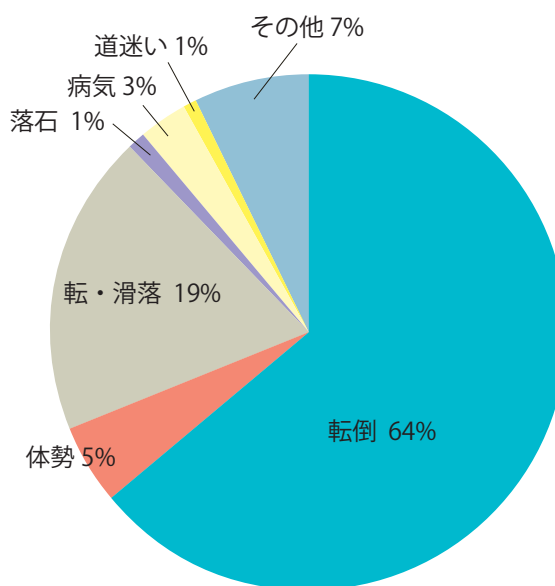
3. 転倒事故の男女差については、2018 年から 2021 年まで女性が 20-30 名前後多い傾向が続いていた。2022 年は 55 人。2023 年は、44 人の差がついた。2024 年は、50 人となった。



4. 下山時の事故について、2023 年は、事故者数 366 名中、下山時の事故は 174 人 (48%)。174 人中、136 人が転倒事故 (体勢含む) (67%) 約 7 割。2024 年の下山時の事故者は、173 人 (47%)。173 人中、119 人が転倒事故 (体勢含む) (68%) 約 7 割。

下山時の事故

原因名	事故者数	男	女
転倒	110	37	73
体勢	9	4	5
転・滑落	33	13	20
落石	1	1	0
病気	5	3	2
道迷い	2	2	0
その他	13	4	9
	173	64	109



※ 2024 年の事故者数 365 人中、下山時での事故は 173 人 (47%)、173 人中の転倒事故は 119 人 (68%)

山に登山者が戻ってきたことが前年と同様の事故に繋がっている。転滑落では、各自の力量を超えた登山や単純なミス回避できるチェックを怠っている事例が多発している。出発前の駐車場やミーティング中・靴を履いている状況での転倒が 4 件、下山開始直後や 30 分以内での転倒が 8 件、下山口直前や登山終了後に転倒が 5 件発生している。さらに、高齢の登山者が下山中に起こす転倒 (体勢含む) が多く、下山時の転倒防止が事故者数を減らす大きな課題の一つである。統計的には、圧倒的に緩傾斜帯での転倒事故が発生している状況を考えると脚筋力の低下やバランスの衰え、視覚認知能力の低下が考えられる。日頃より低山を含めた登山を行う事と同時に、筋力トレーニングを積極的に取り入れ、脚筋力やバランス能力、反射機能を高め登山寿命を伸ばす努力も必要である。

神戸のやぐらで 動的破壊実験 & オームの測定

実施日：2024年11月30～12月1日

全国連盟遭難対策部 道央連盟救助隊 白石泰之



衝撃荷重による破断試験実施の経緯

この2年間に補助ロープ（アクセサリコード6mm）を使用した事故事例が続いた。補助ロープの使用を奨励している地方も多いことから、全国連盟遭難対策部では、ロープの破断試験実施を検討した。各メーカーは静的荷重テストのデータを公開しているが、衝撃荷重による破断が、どうなるのか知りたいとの思いがあった。近畿ブロックの搬出技術講習会に参加した結果、百丈やぐら（神戸市道場）での試験を考えた。やぐらを管理する大阪府連の協力も得て、全国でも初の試みとして「ロープ等の動的破断試験」とビレイヤーとクライマーの荷重軽減デバイスであるオーム（EDELRID）のテストを実施することができた。

動的破断、未知の試験の構築

神戸市北区の鎌倉峡、百丈やぐらで、エーデルリッド社のビレーアシストデバイス「オーム」の作動試験と、細引き、スリングの動的破断試験を

行った。札幌の救助隊関係者の方から、静的破断テストの方法等を聞き、動的破断試験は資料、経験談が無く、YouTube上で調べた。

11月前半、北海道連盟会長の長水さんに、「やぐら」について聞くと、ナイロンザイル事件、ピットシューベルト等々、初耳の事ばかり、『生と死の分岐点』2冊を即ネットで購入した。道央連盟理事会で神戸の件を話すと、オンライン参加の全国理事山本さんが、画面に青い本（岩登りの確保技術）を瞬時に出し、今でも読まれている本なのだと感心し、後日データを貰う。（更に後日、データ、書籍を中川先生から頂く）。札幌からは、もしもの時の装備を20kgほど持ち込んだ。

初日は手探り状態だった。簡単に破断出来、身近に起こりえる事象から、細引きやスリング上に作成したノットの破壊をすることにした。静荷重試験は、札幌に戻ってから行った。

システムは伸びない物で構築する

やぐら2階空中に支点を設置し、張力計→テスト材→ロープ→重り、の順で接続した。破壊を促すべくロープ全長を150cm(4本)から250cm(2本)に変更すると、衝撃荷重が6.8kNから4kNに減少した。2本ロープにすると伸び率は倍に増え、ショックアブソーバーの機能が働いた。この後、車両用ダイニーマ牽引ロープに交換した。

右記に中川先生の解説と、ロープ交換時の波形を載せる。ダイナミックロープの場合、グラフ1の波形はピークが鈍く、ゆっくり荷重が伝わり、テスト材とロープに荷重が分散し、システム全体として荷重を受けて、テスト材に集中しない。ダイニーマロープでは、重りのエネルギーを短時間にテスト材に伝えられるので、エネルギーが分散せず、効率良く破壊することが出来た(グラフ2)。

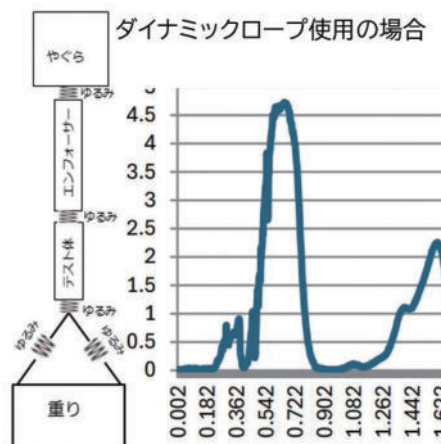
小径ロープの結びの損失は予想よりも大きい

ダイニーマロープを使用すると、以前に増して破断が一瞬に起き、建物の振動が足に強く伝わり、破断時にプラスチックの溶ける匂いを感じた。重りのビレイをしていた川嶋さんは、強い衝撃を受け驚いていた。150cmの落下で12kN以上の衝撃荷重が掛かった。ダイニーマスリングにオーバーハンドノットを作成した場合6.5kNで破断、ケブラーのエイトノット部分は7.4kNで破断した。ハitek素材の強度低下が著しく、結果に皆驚いた。ここから懸念されることは、ダイニーマスリングで作成した長さ100cm位の自己確保デバイスだ。接続部と人体が衝撃を吸収し破断はしないと思うが、確保支点より高い場所からの転倒で、条件によっては、結び目の破断強度が1/3以下に低下する危険性がある。小径ロープは断面積も少なく、結び部分の曲率変化が大きいのか、小さな結びの強度低下が著しかった。ダイニーマは発熱による強度低下、ケブラーは屈曲に弱いという、素材の特性も数値に現れた。

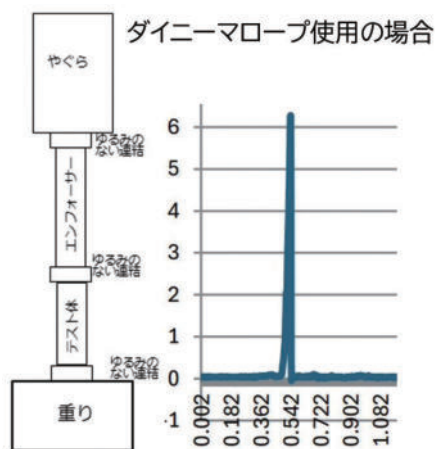
テスト材、試験機材、手作りスリングの作り方

エーデルリッド、ベアールの説明書には、手作りスリングの破断強度の記載が有りテスト材強度

グラフ1 破断装置模式図ダイナミックロープ波形



グラフ2 破断装置模式図ダイニーマロープ波形



の参考値となった。エーデルワイス社のケブラーは、ベアール社の説明書の数値を基準にした(同一製品とのこと)。年末で商品が少ない中、札幌の秀岳荘で揃えた。

- テスト材：
- ・エーデルリッド PES コード 6mm (9kN) , 7mm (13kN) (外内ポリエステル)
 - ・ファイントラック フローティングロープ 6.5mm (外ポリプロピレン、内ダイニーマ)
 - ・エーデルワイス ケブラーパワーロープ 5.5mm 15kN (外ナイロン、内ケブラー)
 - ・ベアール アクセサリーコード 6mm (外内ナイロン)

- 計測機器：
- ・ロックエキゾチカ Enforcer Load Cell : LC1 測定値最大 20kn
 - ・車両用ダイニーマ牽引ロープ 6m (6t用) ダイニーマ製ソフトシャックル

(5t 用)

- ・水本スナップシャックル YA-2 (落下装置、ピンを引くと重りを落とせる)

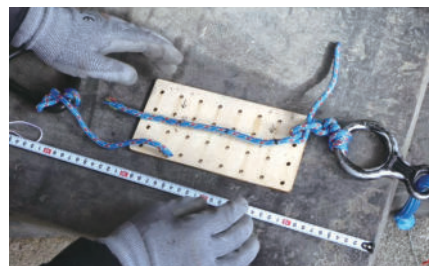
末端処理：手作りスリング末端余長は 10cm、しっかり手締め。ノーノット固定はカラビナ等に 3 巻以上し、ツーハーフヒッチ (通しクロブヒッチ) で締結。

スリング：独エーデルリッド本社に手作りループの作り方について質問すると、末端は 10 cm の余長、手締め、とのことだった。破断後の末端は 2/3 までの短縮に収まり、エイトノットの末端も同じ結果だった。

参考値としての静荷重破断試験

動的破断テストの比較の為、札幌で静荷重破断用木枠を作成し、静的破断試験を行った。

- 素材：・中間部 150cmKD 95mm 角材、端部 105mm 角材、構造用合板 12mm 厚、全長 190cm
- ・4t ハンドウィンチ、最大 4 倍力。支点はダイニーマソフトシャックル (強度 10t 以上)
 - ・iphone に ENFOCER アプリ導入

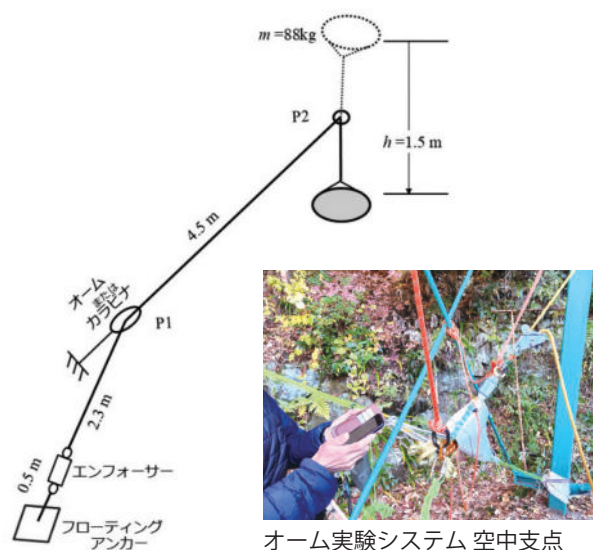


動的、静的破断試験の結果

■ 百畳やぐら 動的破断試験結果(重り87kg)				1日記録 避難対策 白石			
90日記録 京都右京 西脇				EDLRID 6mmコード 中間オーバーハンド			
Beal6mmコード単体 両端ノーノット	落下距離	破断荷重	方式 使用ロープ	落下距離	破断荷重	方式 使用ロープ	
	149cm	7.7kN	動的 ダイナミック	190cm	6.2kN	動的 ダイニーマ	
					8.0kN	静的	
ファイントラック6.5mm 両端ノーノット				EDLRID ダブルフィッシャーマンループ 中間にオーバーハンドノット			
落下距離	破断荷重	方式 使用ロープ		落下距離	破断荷重	方式 使用ロープ	
212cm	6.8kN	動的 ダイナミック		150cm	12.3kN	動的 ダイニーマ	
	7.7kN	静的			8.0kN	静的	
ファイントラック6.5mm 両端エイトノット				スリング中間にオーバーハンドノット 中古マムート8mmダイニーマ60cm			
落下距離	破断荷重	方式 使用ロープ		落下距離	破断荷重	方式 使用ロープ	
208cm	7.4kN	動的 ダイナミック		150cm	6.5kN	動的 ダイニーマ	
	8.7kN	静的			8.0kN	静的	
Edelweissケブラー 両端エイトノット				中古エーデルリッド8mm 60cmスリング			
落下距離	破断荷重	方式 使用ロープ			8.0kN	静的	
223cm	7.4kN	動的 ダイナミック					
	7.9kN	静的					
EDLRID PES 7mm 両端エイトノット							
落下距離	破断荷重	方式 使用ロープ					
243cm	9.2kN	動的 ダイナミック					
	8.0kN	静的					
■ 札幌 静荷重破断試験結果							
Edelweiss 5.5mmケブラー				記録 避難対策 白石			
テスト材	破断荷重			EDLRID PESコード6.0mm	テスト材	破断荷重	
ロープ中間にオーバーハンド	6.08kN			ロープ中間にオーバーハンド	6.33kN		
ダブルフィッシャーマンループ	14.8kN	★		ダブルフィッシャーマンループ	13.0kN	★	
ダブルフィッシャーマン単体	9.33kN			ダブルフィッシャーマン単体	7.23kN		
両端エイトノット	6.08kN			ダブルフィッシャーマンループ 中間にオーバーハンド	9.33kN		
				オーバーハンドノットループ	11.4kN	★	
6mmケブラー 豊橋組紐(1990年前後製造)				ファイントラックフローティング6.5mm			
テスト材	破断荷重			テスト材	破断荷重		
両端エイトノット	5.57kN			ロープ単体の強度	7.67kN		
ダブルフィッシャーマンループ	12.9kN			両端エイトノット	8.66kN		
EDLRID PESコード7.0mm				★説明書記載破断強度と同等			
テスト材	破断荷重						
両端エイトノット	8.02kN						

エーデルリッド オームの実験

オーム実験システム 模式図



オーム実験システム 空中支点

百丈やぐらの1階部分に、リギングプレートを空中固定し、ビレイポイントを設置した。①測定器に自由度を持たせるためスリングで固定。②操作性の良い高さで運用。③2階上部に折り返し点、1階天井部の柱にオームを設置した。

エーデルリッド社のオームは10-40kgの体重差のあるクライマーとビレイヤー向けに設定され、クライマー落下時に作動する補助ブレーキ抵抗器だ。最初のボルトに設置し、ロープの送り出しの抵抗は増加しない。詳しくは、エーデルリッドのサイト等を参照すると分かりやすい。

測定結果は中川先生に解析を行って頂いた。グラフ3に測定結果を示す。横軸は墜落開始からの時刻、縦軸はビレイヤーを模したフロートイングアンカーにかかる力を単位kNで示す。長さ7.3mのロープは固定確保器グリグリで固定した。グラフにはオームを用いた2回の試技の結果をカーブ1およびカーブ2で、オームを用いない試技の結果をカーブ3で示す。ビレイヤーにかかった荷重ピークは試技1で1.05 kN、試技2で0.95 kN、試技1と2の平均で1.0kNとなった。一方、オームを用いなかった場合（カーブ3）では荷重ピークは1.5 kNと大きな値が得られた。

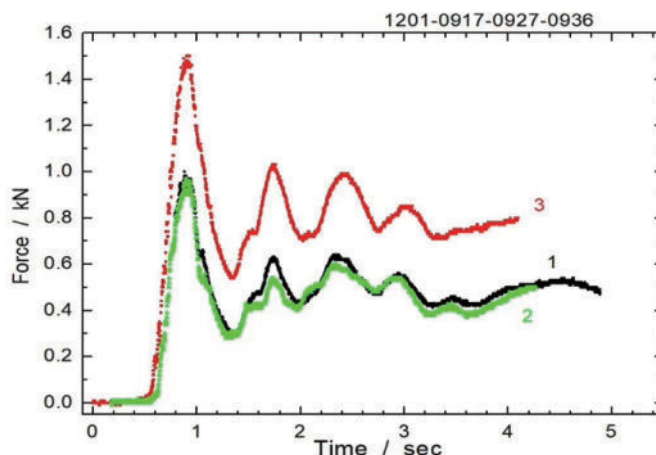
これらの結果を「ビレイアシスト効果」の観点から考察する。荷重ピークは、オームを用いたことにより、1.5kNから1.0 kNと、67%に減少し

オーム波形、緑、赤、黒

1 オーム1回目

2 オーム2回目

3 オームなしでカラビナを用いた



た。これは、オームのブレーキ効果によるものである。これはエーデルリッド社が提示している体重差30%と一致した。スローモーションでロープの動きを見ると、ビレイヤーからオームまでの部分は動きが遅くなり、ビレイヤーにゆっくり荷重を伝えているように見えた。

・ピーク値 オーム1回目 (1.05 kN 黒)、オーム2回目 (ピーク 0.95 kN 緑)

・オームなしでカラビナを用いた ピーク 1.5 kN (赤色)

二日間のメンバーに感謝

即席チームで良いチームワークの中、システム構築、運用が出来、ノウハウ、データは今後に繋がるものだった。テスト材の破断、結果に、一同皆歓声を上げた。京都府連から見学に来ていたAさんご夫妻からは「皆さん子供の様に熱中し楽しんでいる」と見えていたようだ。ベテラン勢の深夜の熱い団欒の時間も良い思い出になった。やぐらでの破断テストはクライミングで起きそうな事件を再現できる良い試験だった。機会があれば次は…。

〈資料〉

エーデルリッド、ベアール社の強度

https://avs.edelrid.com/images/attribut/54522_GAL_AccessoryCords_ANSICHT_1.pdf

<https://b2b.beal-planet.com/img/cms/catalogues/BEAL%20-%20WB%20Sport%202023%20-%20FR%20ST%20BD.pdf>

気象のお話

登山に役立つ

山の天気の常識

スマホで山の天気予報が見られるようになり、天気予報の精度も高くなってきたことで、晴か雨かをみて山に行くかどうか決めている人も増えている。しかし、山の天気は変わりやすく予報が頼りにならないこともあるし、悪天候時には山岳特有の危険もある。今回はあらためて山の天気の常識として知っておきたいことをいくつかまとめてみよう。

たときは日本アルプスや上信越、北日本の山は吹雪やみぞれになる。視界が無く道に迷ったり、行程が遅れたりして目的地に着けず死亡事故になる例もあるし、強風で動けないうちに体温が奪われる危険もある。強い寒気の襲来は現在ではほぼ100%予報可能なので、天気予報をチェックするときには晴／雨だけでなく気温と風速も必ず確認してほしい。“tenki.jp”（日本気象協会）や“てんきとくらす”（日本気象株）などでもチェックできるし有料山岳気象情報サービスの利用も有効だ。

GW中には冬並みの寒気が入る日が 気温と風速もチェックを

春は気温が上がったり下がったりを繰り返しながら季節が進む。寒気が入り気温が低くなると山の気温は1.5～2か月戻る。GWも例外ではなく毎年強い寒気の入る時期がある。

図1が過去5年の富士山の気温だが、毎年2月後半～3月前半に相当する程度の低温になるタイミングがあることがわかる。2月から3月と言えば山はまだ冬だが、GWでも寒気が入

雷が鳴ったら高い樹のそばは危険4m離れる

雷雲（積乱雲）によりにわか雨が降り出したとき、とりあえず雨を避けようと大きな樹の下に

図1：過去5年間で2016年のGW時期の富士山の気温

GW時期にはほぼ毎年1回は2～3月並みの寒気が入る。2024年は5/9に強い寒気が入った。

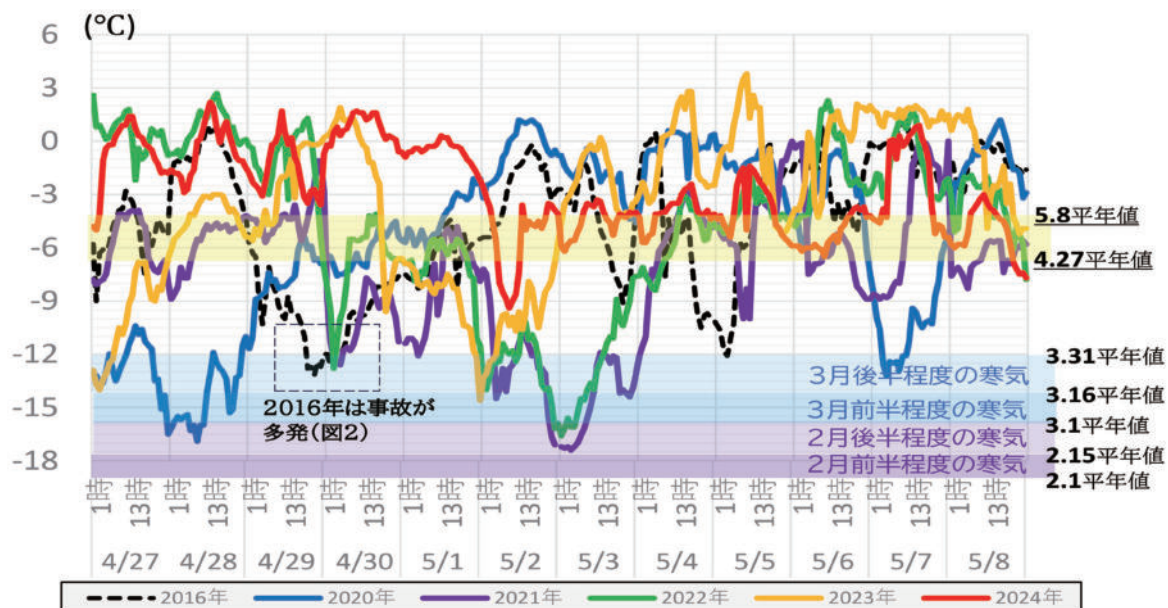
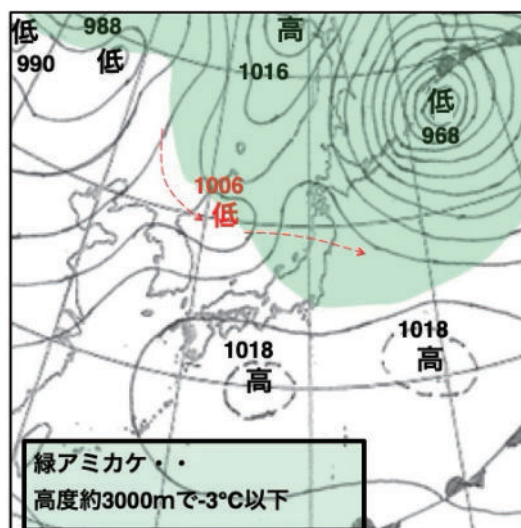


図2：事故が多発した2016年4月30日の天気図（左図）と立山連峰（右写真）



岐阜県天蓋山（1527m）から29日朝の立山連峰（右の大きな山が黒部五郎岳）
●昼頃には笠雲がかかり天候悪化を告げていた。
29日から30日にかけて強い寒気が入った。立山で悪天候で身動きが取れなくなる遭難（死亡）があったほか、北アルプス各地で滑落など事故が多発した。天気図で赤で示した低気圧も天候をさらに悪化させたと思われる。低温に加え風も強く、能登半島輪島上空約3000mでは30日21時に風速21mを記録した。

入った時に雷に打たれる事故が多い。人体は電気を通しやすいので、高い樹に落ちた雷の電気は樹のそばに人がいればその人に飛ぶ（図3）。

高い樹の近くが比較的安全だとしても、幹や枝からから4m以上離れることが必要で、それより近づくと危険となる。また、柱だけの休憩舎（あづまや）も危険だ。安全なのは山小屋や自動車の中で、要は壁に囲まれていることが必要だ。雷の射程距離は10km程度と言われているが、雷鳴の聞こえる距離も10kmで、少しでも雷鳴が聞こえたら避雷を意識した行動をとることが大事。しゃがんで姿勢を低く、傘は差さずザックにポールやストックが差してあれば取る、頂上や稜線は避け凹地や低い場所が比較的安全だ。

図3：大木の真下や柱だけの休憩舎（あづまや）の下は落雷危険



一時的な流量減少は上流でせき止めが発生しているサインというわけだ。固定カメラで撮影した貴重な実例が槍平小屋ホームページ（URL本文末尾）にあるので画像でその脅威を確認してほしい。

春から夏、秋は積乱雲によりにわか雨が降るが、積乱雲は直径10km程度なので雨域が狭く、自分のいる場所で降っていないくとも上流で大雨になっている場合がある。上流に黒雲がかかっているときや雷鳴がかすかでも聞こえるとき、一粒でも雨を感じたときはその可能性がある。谷や沢で流されると大概が重大事故になるので、行動は自重し高みへ避難に越したことはない。

※鉄砲水の実例（槍平小屋ホームページ）

<https://blog.goo.ne.jp/yaridairagoya/e/59945068e6bcd9612605df8b3cefd3c6>

雨なのに谷の水量が減ったら鉄砲水の危険が

雨が降れば谷や沢の水かさが増えるが、一時的に減る場合がある。これは危険サインで「今のうちに渡ろう」などすると命の危険がある。つまり、谷や沢では石や土砂、倒木、残雪などが狭隘部に詰まって一時的に水をせき止めることがあり、やがてそれが決壊し大量の水がいちどきに流下し鉄砲水や急激な増水が起きる。



劔岳ハツ峰Ⅵ峰岩壁群

遭難現場からの レポート

第九回

日本勤労者山岳連盟 理事長 川嶋高志

遭難の教訓

備忘録⑨「救助」

○初めての救助活動

黒い塊が落ちてきた。続いて人が目の前に降ってきたかと思うと、5m も離れていないテラスの端に当たり、さらにシュルンドの中に消えていった。

ここは劔岳ハツ峰Ⅵ峰 B フェースの取付きだ。1980 年の 7 月、K 大山岳部の夏山合宿に参加していた私は、遭難事故の現場に初めて遭遇した。落ちてきたのは九州の A 大山岳部の二人。この山岳部では伝統的に地下足袋にドカ

ヘルで岩登りをしていた。フォローがロープにぶら下がり、リーダーが確保できず、自己確保の支点としていた這い松も根っこから抜けて 50m 以上落下したらしい。周囲にいた登山者が集まってきた。私たちも登攀を中止してシュルンドの中に下降した。一人はうめき声をあげていたが、もう一人は全く動かず、頭から出血していた。20 人以上集まってきて、三角巾で手当てするもの、無線機で富山県警に連絡するものなど、各自が自主的に救助活動に当たっていた。私は、たとえば、先輩二人とともに見ただけだった。そのうちに県警からの連絡

で、熊の岩からヘリでピックアップするので、二人をそこまで搬送することになった。人数は大勢いるが、雪溪からガレ場を通過して数百mの距離がある。どうやって運ぶのか？しばし沈黙が流れた。

私が救助活動に関わるようになってすでに半世紀近く経ったが、レスキューの講習会を初めて受けたのは19歳だった。まさしく今回発生した事故の前年、東京都連盟の登山学校で現在の臼井労山基金運営委員長に基本的なレスキュー技術を教わっていた。先輩に「ザイル担架を作ればいいのでは」と、緊張気味に伝えた。習ったばかりの技術ではあるが、「では、おまえが作れ」ということになっ

た。もちろん、本番で作るのは初めてだった。冷や汗をかきながらなんとか作り終えると、もう一つ作れということになった。私以外はザイル担架を知らなかった。さらに左右に5人ずつが就いてスリングを肩と腰から廻してタスキ掛けにし、カラビナをザイル担架のロープ2本に架け高さを調整することまでやった。これが結構上手くいって、雪溪で一人ぐらゐ転んでも、担架に乗せた要救助者を落とすことなく、無事に熊の岩まで二人を運ぶことができた。

劔岳での初登攀はお預けとなったが、丸一日かかった救助活動は不思議に満足感があり、真



前穂高北尾根Ⅳ峰

砂沢ベースキャンプで余韻に浸っていた。しかし、暗くなってから他の大学山岳部から「残念ながら一人は亡くなった」と連絡があり、なんともやるせない気分となったことを未だに忘れない。

○パートナーの救助

1980年の大学山岳部夏合宿（劔岳と穂高岳）は予定通りに終了し、その年の秋にはS先輩と二人で奥多摩の越沢バットレスへ岩登りに通っていた。ある日、左ルート2ピッチ目のクラックに登っている先輩が滑落。中間支点をクラックの下で取っていたため、足から緩傾



前穂高北尾根Ⅳ峰正面壁の核心ハング

斜帯に落ちて、横になり5m ぐらい転がって止まった。声をかけても返事がなく、ロープを固定し確保からの脱出をして、プルージックで登り返し、事故者のところに辿り着くと、意識を取り戻していた。他のパーティが協力を申し出てくれたので、ありがたく手伝っていただき、取り付きまで介助懸垂で下降。その後はザイルを二つ輪にして事故者を背負い、救急車の入る車道まで歩いた。背中で「夏合宿はどうなるん

だ」と話しかけるので「頭を打っているのか?」と思うと涙が出てきた。足首を複雑骨折したS先輩は、その後は山から遠ざかっていった。

○奥又白合宿

1982年8月、N山岳会の奥又白合宿は無事に終了し、私たちは滝谷へ移動しようとしていた。前穂高東壁右岩稜古川ルートと前穂高北尾根Ⅳ峰正面壁北条新村ルートを快適に登ることができ、今日はアルバイトをしていた北穂高小屋まで移動するだけだ、と気楽に構えていたが、K山岳会のN氏から救助要請が入った。共に東京都北部勤労者山岳連盟の救助隊員として活動していたので、予定を変更し救助活動に参加した。

N氏は前穂高Ⅳ峰東南壁RCCルートを登攀中にパートナーが落石事故に遭い、現場で動けない、とのこと。とりあえず現場へ行き、ボルトを打ち足して確保支点を補強した。事故者は腰の打撲で、考えていたより元気だった。事故者を腹に乗せて約20mを他人懸垂で降ろす。雪渓に着いてからはザイル担架を作り、前の一人が方向を決め、後方の二人がロープで確保しながら降ろしていく。その後は徳澤園から登り返してきたN山岳会の



A 沢から奥又白池を見下ろす

本隊（北部連盟救助隊長など救助隊員6名）が合流し、奥又白池まで搬送した。

奥又白池からの搬出はヘリを要請することになった。まだ公的なヘリが普及していなかったが、費用が掛かっても人力で降ろすより安全だと思った。それは北穂高小屋への荷揚げで何度も見た東邦航空ヘリの飛行技術から想像できた。一泊した翌朝、天気は快晴となり、慌ただしく他のパーティにテントをたたんでもらい、ヘリのピックアップに備えた。ヘリの搬送はあっという間だった。

○解説

労山会員となり、登山学校で救助技術を教わってから、立て続けに岩場での救助活動に参加した。当時はハンマー、ハーケン、カラビナを三つ道具と呼び、重いが必須の装備として持

参した。さらにボルトを打つためのジャンピングセットも持って、岩場に行った。

救助活動では支点を確実に補強しなければならない。北穂高小屋のアルバイト中に鎖場の補強でボルトを何本も打っていたのが役に立った。雨具やザック、ロープなどあるものを利用しての背負い搬送は、技術以上に体力が必要だった。担架はツエルトやザック連結でも作ることができる。しかし、傾斜が急な雪渓を降ろす時は制動が効くザイル担架が有効だった。

今回の事例は事故現場にいるものが参加するコンパニオンレスキューだ。現場に多くの登山者がいても知識と技術そして体力がなければ役に立たない。万が一の時に備えて少しでも救助活動に関われるように常に学習しておきたい。

Steve Long's スティーブの Garden ノースウェールズ庭だより Correspondence

国際部長 大和田英子

第8回

誕生と再生の季節、春。日本でも同じだと思うけど、クライミング・ジムで冬の間練習してきた成果が岩場で試される季節だね。今年の冬はそれほど厳しくなく、春の訪れが早い。スコットランドで雪上訓練を目論んでいたら残念だが、庭にとってはとてもありがたい。このコンディションのおかげで、ボクは庭に池を掘れた。池の周りは沼地状態で、新しい種類のブルーポピー（メコノプシス）が咲き乱れる。ブルーポピーには適度な湿り気が必要で、その塩梅が難しい。

温暖で湿気の多い僕の庭の一角でよく育つ植物の仲間に、俗に「おばあさんのボンネット」と呼ばれる西洋オダマキ（アクイレギア）がある。原種には「ボンネッ

ト」にふさわしい華やかさはないのだけれど、このマッカナ・ハイブリッドのような園芸種は繁殖力が旺盛で、晩春から陽気なツートンカラーとなって、シダ状の葉の上を舞うように咲き競う。もうひとつの楽しみは、ユキノシタ科



Mississippi Burning

のティアレラ・コルディフォリア。ボクのマグノリアの花壇の縁によく似合う花なんだけど、隣で勢いよく増えるゼラニウムから守ってやらないといけないんだ。

みんなも知ってると思うけど、スノードニアは、



西洋オダマキ（おばあさんのボンネット）



ユキノシタ科のティアレラ・コルディフォリア



青いケシ

ナチュラル・プロテクション（「トラッド」クライミング）を使った多種多様なクライミングで世界的に有名だ。ボルト・プロテクションは厳しく制限され、主に元の石切り場や石灰岩の岩場でのみ許可されている。しかし近頃、脆すぎたりコンパクトすぎたりしてナチュラルプロテクションが施せなかった岩場で、「スポーツ」クライミングの開拓が大幅に拡大している。かつてはひとつかふたつの「デスルート」しかなかった岩場が、今ではエキサイティングなスポーツクライミングゲレンデに変身している。ただし、支点は相変わらず脆くて信頼できないから、ここのルートを安全に楽しむには、トラッドク

ライミングで培った技術と判断力が必要なんだよ。まだ岩場が乾いていない早春に、筋肉と頭脳の両方を鍛える最高のトレーニングになる。

ボクが最近気に入っているルートを紹介しよう。ヴィクトリア朝のビーチリゾート、スランディドノーの丘の中腹にあるアッパー・エンパイアの岩場には、5.10から5.13のグレードのルートがあるんだ。この写真は、Mississippi Burning（5.11d）という素晴らしいルートで、ボクは珍しくヒールフックしてる。なんかごちないなあ、と仲間には言われてるけどね。

日本でも屋外活動が活発になると思う。ぜひ、五感をフルに活かして、安全登山を心がけてね。

こ ちづね 山さんぽ^o やま

武井真理 カモシカスポーツ

七瀬：2015年6月生

峻：2018年7月生

飛鳥：2021年6月生



2024年6月上旬

七瀬 小3、峻 5歳11ヶ月、飛鳥 3歳0ヶ月

神奈川県相模原市 津久井湖 城山 標高 375 m

参考◎『県立津久井湖城山公園ガイドマップ 城山散策絵図』
<https://www.kanagawa-park.or.jp/tsukuiikoshiroyama/pamph.html>
(津久井湖城山公園パークセンター発行)、山と高原地図「高尾・陣馬」(昭文社)

コースタイム◎10:00 津久井湖観光センター前バス停～10:30 湖畔展望園路経由で女坂を経て、城山山頂へ～(11時頃休憩)～11:30 城山山頂～(おやつ休憩)～男坂&城坂経由で根小屋地区へ～12時過ぎ 城坂直下の公衆トイレ辺り～おやしき広場で昼食～13:15 根小屋地区のパークセンターや遊具で遊ぶ～14時半頃 津久井湖観光センターバス停へ向かう

こどもの友達の親子総勢16名(!)で、津久井湖 城山へ。前々回書いた、吾妻山とほぼ同じメンバー—小3生5名、年長3名、そしてその父母—保育園卒園後も、小学校も同じで、いまだによく遊んでいる仲間達です。この半月前にその一部メンバーで弘法山へ出かけ、また皆でハイキングに行こうかという気運が高まり、城山ハイキングを企画。

ここは七瀬がまだベビーキャリーに乗れる程小さかった2歳頃にも、訪れたことがありました。よく整備されていて、下山後も遊び満載だったので、大勢だときっと盛り上がるだろうと、城山にしました。

登山口までは、電車とバスを乗り継いで約1時間半。乗車時間自体はそこまで長くないものの、人数が多いので、乗換、トイレや買物も時間がかかることを予想し、若干ゆとりある行程。その間、こども達はきっとヒマ…そこで、写真のような「山のしおり」を作りました!目玉は「探してみよう」ページ(写真参照)!電車に乗るやいなや、皆熱心に取り組んでくれて、移動時間も苦にならなかったようです。

山頂近くからの津久井湖&記念撮影



1週間程、夜なべしてつくった、入魂の「山のしおり」。地図、行程表などもりだくさん。「探してみよう」ページは、車窓からの眺めや道中にあるようなものが絵で並んでおり、見つけたら○をつけるというもの。まだ字が読めない子もいましたが、絵で理解して楽しんでくれたようでした。



原っぱでお弁当



パークセンター内で、この地域の自然や歴史に関する体験型展示も充実。井戸水ポンプや、紐編み機も楽しめる

津久井湖観光センターでバスを下車し、トイレ休憩の後、湖畔展望園路(木のデッキ)をしばらく歩いて入山。初夏で木々の葉が生い茂り、鬱蒼とした中、つづら折りの細い道をゆっくり登っていきます。未舗装の山道に慣れない子を励ます姿も見られました。

小3&年長の年齢差だと、弟妹も、兄姉のペースについて行っていました。やはり大変だったのは、圧倒的に年下の飛鳥3歳。皆のペースについていく体力、集中力はなく、夫の抱っことなる場面もしばしば。3歳同士のグループで歩くのだったら、そのゆっくりペースで歩けたと思うのですが、年齢差がある大所帯だと難しかったです。

途中のベンチでおやつ休憩をして、いざ山頂へ。山頂は春夏は展望はあまり開けていませんが、少し歩くと湖を見下ろせて、周辺の山々の眺望がよい場所があります。

根小屋地区方面に下山すると、夢のような美しい原っぱが!そこで昼食としました。ひとしきり遊んだ後、遊具のあるパークセンター方面へ移動。ここでも、みな砂だらけになって、遊びまくり、放っておくといつまでも遊びそうでした。

高みをめざすために学びませんか 科学的な分析と結果を身につけませんか

鹿屋体育大学名誉教授・山本正嘉先生が、昨年10年近い研究や実践の成果を「登山と体の科学」（講談社版）として発表されました。労山全国連盟は遭難対策部を中心に去る10月、茨城県でこれらの内容を踏まえた講習と実技を行い、40名余りが参加しました。労山では昨年、7件の死亡事故のうち2件が76歳男性の高齢者の無雪期登山事故です。滑落、病気とそれぞれ理由がありますが、事故に至るまでの当事者の登山形態はどうだったのでしょうか。今回のリーダー学校では「登山寿命を延ばす歩き方とトレーニング」を目的として、講習と実技を行います。



講師 安藤真由子さん

- ①自分自身（もしくは仲間）の山での体力を知ること。
- ②長く歩き続けられる歩き方を身につける。
- ③日常生活でできるトレーニング法を学ぶ。

主 催 全国連盟・全国ハイキング委員会

主 管 長野県勤労者山岳連盟

講 師 安藤 真由子さん（鹿屋体育大学卒、体育学博士。健康運動指導士、登山ガイド、元自転車ロードレース日本代表）
川嶋 高志さん（全国連盟理事長・神楽坂アルパインクラブ）
石川 昌さん（全国連盟遭対部長・船橋勤労者山の会）

開 催 日 2025年6月7日（土）～8日（日）雨天でも実施します。

開催場所 北八ヶ岳・唐沢鉱泉

午後12時半受付 1時開会（JR茅野駅から送迎あり）

募集定員 40名（定員に達しました。今後はキャンセル待ちとなります。）

受講希望の方は全国連盟ハイキング委員長 田上 090-8117-4749 にご相談ください。）

参 加 費 15000円（1泊2食付き）原則、両日参加となります。日帰り参加費は2000円です。



フスハハハ

その9 村松 孝一



編集後記

今年、東京の桜は3/30に満開となった。普通なら、その後桜吹雪が始まり、すぐ葉桜となるところだ。ところが今年は満開の前後に真冬の寒さが続き、花が長持ち。4/4に労山事務所近くの桜を見に行ったら本当にきれいで、今年は花見を長く楽しめた。(石川友好)

春到来だ、お天気で何某の事象は観測史上初めてと話題をさらう。でも花散らしにも負けずに桜は長持ち粘ってくれて、今年も楽しませてくれた。評議会も無事終わったので、掲げた活動の実現に向けてダッシュの季節だ。今月号は評議会報告一辺倒になりかねないので、パタゴニア旅行記を取り上げた。内容が豊富だけに次号にも連載予定なので楽しみにしてほしい。(今野善伸)

春、新人が新たな一步を踏み出す時期。私も還暦を迎えた新人の編集部員。簡単な冊子制作の経験はあるが、登山時報のような歴史ある冊子に携わることは初めて。私一人では何もできない。周りの多くの方からの協力と援助を受けながら春号を作った。手元に届いたときに、自然と笑顔になる物となるよう心掛けたい。(小松屋)

登山時報 ©禁無断転載

2025年春号 No.587 2025年4月25日発行

編集・発行責任者 川嶋高志

編集 石川昌、石川友好、白井邦徳、宇田川道恵

小池藍、今野善伸、田上千俊、武笠真次

水田哲生、山本尚徳

発行 日本勤労者山岳連盟

〒162-0814 東京都新宿区新小川町 5-24

TEL 03-3260-6331 メール jwaf@jwaf.jp

印刷 有限会社 カウズ

DTP・デザイン 来住真太

あなたを「見つける」

山岳搜索サービス「ココヘリ」



実例 藪が生い茂り、かつ登山道からも離れていたため、ココヘリがなければ発見は難しかった事案

山に行くと出かけたまま帰宅せず...

警察の搜索3日目の朝、警察からの会員照会があり、ココヘリ会員様であることが判明。
通報日の午後、ヘリで発見し300mまで位置を絞り込み、翌朝ドローンチームが警察に同行し会員様と接触。
ココヘリがあったからこそ早期発見につながりました。

遭難の現場では何が起きているのか...

実例で知る「ココヘリ」とは？



その他、搜索事案を見る ▶



日本勤労者山岳連盟

労山事務局 からのご案内

労山で推奨している山岳搜索サービス「ココヘリ」。
ココヘリスタッフによる、「ココヘリの説明会」を実施していただきます。
この機会にココヘリの仕組みや搜索実例等を知って労山基金と併せて備えてください。
説明会は下記方法で各山岳会でココヘリへ依頼してください。

日本勤労者山岳連盟理事長 川嶋高志

依頼方法

右記QRコード、または omine@authjapan.com へ
山岳会名・ご担当者名・ご連絡先 を記載してメールにて依頼





大事なものを、 揃っています。

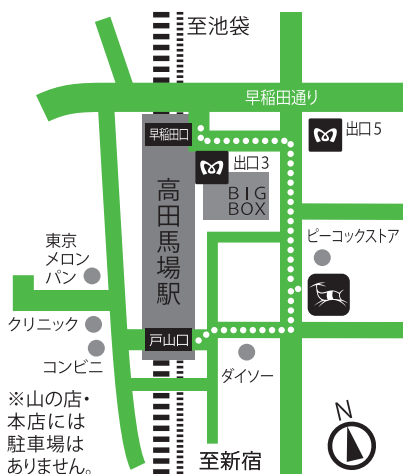
「登山用品専門店」だからこそ
出来る品揃えと接客サービスで
安全快適な山行をサポート。



カモシカ 通販

＼オンラインショップ24hrオープン!／ こだわりアイテムと充実の品ぞろえをネットから!

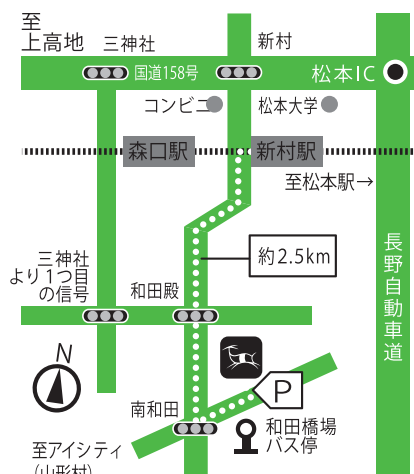
山の店・本店 JR高田馬場駅から徒歩3分



山の店・横浜店 JR横浜駅東口から徒歩5分



山の店・松本店 松本ICから約6km



登山用品専門店 カモシカスポーツ

本店・横浜店 OPEN 11:00 CLOSE 19:30(月～金)/19:00(土日祝) 松本店 OPEN 10:30 CLOSE 19:00

- 山の店・本店 TEL 03-3232-1121 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場1-28-6・2F
- 山の店・横浜店 TEL 045-4440-0711 〒220-0011 神奈川県横浜市西区高島2-6-32横浜東口・ウィスパビル1F
- 山の店・松本店 TEL 0263-48-2424 〒390-1242 長野県松本市和田4478-1